



GSGES throws party to welcome new students

By Izuru Saizen, associate professor, GSGES

On April 11, GSGES held an event at the Yoshida Co-op cafeteria to welcome its new intake of students. Thirty-nine master's students of environmental management, eight doctoral students of global environmental studies and four doctoral students of environmental management joined our graduate school at the start of the academic year. The new arrivals discussed future research with the faculty staff and current students, who also attended the party.

平成 26 年 4 月 11 日、吉田生協にて学舎新入生歓迎会が開催されました。本年度は新たに修士課程 39 名、地球環境学専攻博士後期課程 7 名、環境マネジメント専攻博士後期課程 4 名が地球環境学舎に加わりました。学舎長の藤井先生より新入生への期待の言葉と乾杯の音頭があり、歓迎会はスタートしました。しばらくの歓談の後、新入生の挨拶があり、各々が個性を活かした自己紹介を行い会を盛り上げました。その後、各研究室の紹介が行われ、新入生に向けて、研究室メンバーの紹介、研究テーマや講義の概要などの説明がありました。多くの参加者がこれからの研究生活に向けての意見交換も行い、盛会のうちに終了しました。



地球環境学舎新入生歓迎会の様子

Vice-president of AIT visits Kyoto University

By Michiko Hasegawa, researcher, CoHHO Educational Unit

Professor Kazuo Yamamoto, vice-president of the Asian Institute of Technology, visited Kyoto University on March 5. GSGES organized a welcome party and a meeting to discuss the exchange of education and research between the two institutions.

Contents

GSGES throws party to welcome new students

Izuru Saizen (associate professor, GSGES)

Vice-president of AIT visits Kyoto University

Michiko Hasegawa (researcher, CoHHO Educational Unit)

Hannari Kyoto Shimadai-juku considers moss and air pollution

Akira Yoshino (associate professor, GSGES)

GSGES applauds students' completion of EML program

Gaku Masuda (researcher, GSGES)

AY2013 graduates hold thank-you party

Michiko Hasegawa (researcher, CoHHO Educational Unit)

First Global Environmental Studies Konwakai fosters discussion

Yoshihiro Okumura (assistant professor, GSGES)

Second Global Environmental Studies Konwakai prompts debate

Tomohiro Numata (assistant professor, GSGES)

Short-visit special auditing students outline study plans

Gaku Masuda (researcher, GSGES)

GSGES Alumni Association celebrates 10th anniversary

Hidenori Harada (assistant professor, GSGES, and secretary, GSGES Alumni Association)

Global Environmental Forum presents problems from a new perspective

Shuichiro Shiotsuka (associate professor, GSGES)

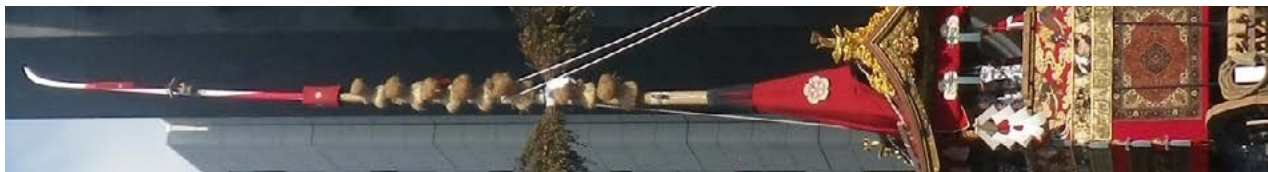
KU sustainability fair brings together students, staff and citizens in month of activities

Tracey Gannon (associate professor, GSGES)

お知らせ /Announcement

GSGES holds international symposium in Can Tho, Vietnam

Hirohide Kobayashi (associate professor, GSGES)



平成 26 年 3 月 5 日、タイ・バンコク近郊にあるアジア工科大学院から、副学長の山本和夫氏が本学を訪問されました。アジア工科大学院は 1959 年にタイに設立された国際大学院大学であり、タイのみならず、アジア各国からの学生を教育し、重要な人材を輩出してきたアジア有数の大学です。本学へは、その修了生数十名が工学研究科や地球環境学舎の博士課程に進学しています。山本副学長は、2013 年から東京大学のクロスアポイントメント制度により、東京大学環境安全センター教授の職務を保ちつつ、アジア工科大学院の副学長を勤められています。

酒井伸一環境科学センター長と藤井滋穂地球環境学堂長の案内で、三嶋理晃理事・副学長（病院・国際担当）、江崎信芳理事・副学長（総務・企画・情報担当）を表敬訪問され、大学の国際化や国際ネットワーク作りについて意見交換されました。本学は、国際戦略「2x by 2020」のもと、タイ・バンコクで「京都大学 ASEAN 拠点事務所」の設置を進めており、今後、本学とアジア工科大学院の教育・研究交流がさらに活発に行われることが期待されます。

その後、地球環境学堂では、懇談会を開催しました。舟川晋也地球環境学堂教授から、地球環境学堂・学舎の特色について説明があったのち、山本副学長から、アジア工科大学院の特色、同大学院が日本の大学・研究機関・企業と共同で新たに始めようとしているプロジェクトについて説明がありました。地球環境学堂とアジア工科大学院は、環境工学、食料・エネルギー、社会開発など、共通する研究テーマも多く、今後の連携に双方から大きな期待が寄せられました。



前列左から山本副学長、三嶋理事
後列左から藤井学堂長、酒井セン
ター長

夕刻からは、百周年時計台記念館内にあるレストラン「ラ・トゥール」にて、懇親会を開催しました。京都大学関係者に加え、工学研究科と地球環境学舎に在籍するアジア工科大学院卒業生も参加し、楽しい時を過ごしながら交流を深めました。

Hannnari Kyoto Shimadai-juku considers moss and air pollution

By Akira Yoshino, associate professor, GSGES

The 29th Hannnari Kyoto Shimadai-juku – entitled ‘What’s new on what covers the land?’ – was held on March 19 at Shimadai, Kyoto. Professor Yoshizumi Kajii (GSGES, Kyoto University) spoke on air pollution and Assistant Professor Yoshitaka Oishi (Faculty of Agriculture, Shinshu University) spoke on moss and its vulnerability to environmental degradation. Tomio Sakagami, a professional gardener, made comments on the speeches and explained the role of moss in Japanese gardens.

三才学林では、「はんなり京都・嶋臺塾」という、京町家を会場とした市民との対話を行っています。嶋臺塾の趣旨は、先端の地球環境学の成果を＜京ことば＞といった生活の中の言葉で練り直すことで、新たな力のある美意識や生活様式を探り、地域に広めていくことにあります。毎回町の方々にご協力いただきながら、四季折々の開催が続いています。第 29 回は、「地を覆うものの現在（いま）」と題し、3 月 19 日に開催しました。学堂からは梶井克純さん、信州大学から大石善隆さん、洛中からは庭師の阪上富男さんにご登壇いただきました。

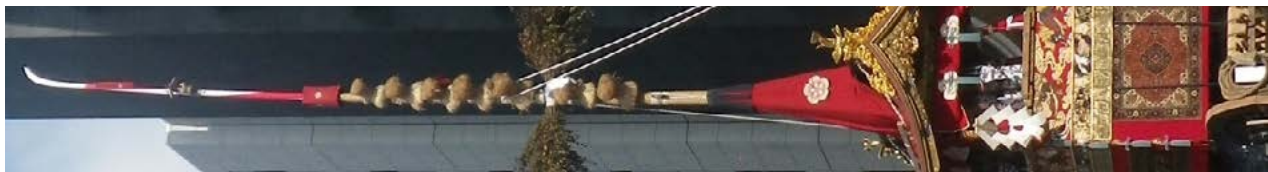
梶井さんからは大気汚染のお話をいただきました。日本では、有害な対流圏のオゾンが、発生の原因とされてきた有機化合物が減っているのに、最近じわじわ増えてきている。梶井さんは、レーザー光線による有機化合物の計測機を自作され、未知の原因物質を探っておられます。そこでわかったことが、大気汚染の原因となる有機化合物を最も大気中に排出しているのは、なんと植物でした。人間活動の 10 倍ぐらいを植物が出しているのだそうです。しかし、だからといって木を切り倒してしまえという話にはならないわけで、要は、我々がゼロエミッションの世界を目指すうえで、汚染物質を減らす経路というのがあって、単純に、例えば窒素化合物だけを減らせばよいということではない、というお話でした。

大石さんからは、苔の話聞かせていただきました。日本の庭には欠かせない苔ですが、苔を愛でる心というのは、じつは外国ではあまりなく、日本でも苔で有名な庭は京都に集中するのだそうです。苔は、陸に上がった最初の植物で、葉を覆うクチクラがありません。その葉を拡大してみるとほとんど色がありません。苔は、維管束を持たず、気孔も持ちません。葉から直接水や養分を吸収し、呼吸も行っています。こうした苔の性質は、大気の湿潤や汚染に敏感であることも意味します。苔は、自身の 10 倍ぐらいの水を吸収し、庭や森の水分を涵養します。森の更新にも重要な役割があります。小さな生物の生育環境でもあります。同時に、苔は環境の変化にとても敏感な植物でもあります。京都では、お寺や鎮守の森などで、貴重な苔が大事にされてきました。そうした苔をもっと知り、馴染みをもってもらえれば、といったお話でした。

また、庭師の阪上さんからは、お二人の話への感想とともに、日ごろ庭園のお仕事をされている立場から、京の山の端の景色や庭の草木の魅力や、苔との関わりをご説明いただきました。会場との対話では、最近気になる PM2.5 の話や、ガソリンの揮発、屋上緑化のあり方、季語としての苔など、多方面からの話題が出され、地上に暮らす私たち自身の環境を改めて考えた 2 時間でした。



嶋臺塾において参加者と議論する演者の皆さん
左から阪上氏、梶井氏、大石氏



日時：平成 26 年 3 月 19 日（水）午後 6 時～午後 8 時
 場所：嶋臺本陣ギャラリー
 学舎から：「身近な大気汚染」梶井 克純氏（地球環境学舎）
 信州から：「小さな苔の世界」大石 善隆氏（信州大学農学部）
 洛中からひとこと：「苔を思う心」阪上 富男氏（庭師）
 司会：今西純一（地球環境学舎）
 主催：京都大学 地球環境学舎・学舎・三才学林
 協力：嶋臺（しまだい）

GSGES applauds students' completion of EML program

By Gaku Masuda, researcher, GSGES

On March 24, GSGES marked the completion of the Environmental Management Leader (EML) program at a ceremony in the conference room. Nineteen participants received certificates from Professor Fujii, the program leader. Professor Shibata (GSGES) and Professor Suzuki (Graduate School of Engineering) gave speeches congratulating the students on their achievements. Mikrigul Adel thanked the organizers of the program on behalf of the students. The students then enjoyed a tea party before some of them rushed over to Katsura Campus to attend their master's graduation ceremony. We hope the graduates' experience of the EML program will prove useful in their future lives and careers.



EML 修了式の様子

AY2013 graduates hold thank-you party

By Michiko Hasegawa, researcher, CoHHO Educational Unit

After their degree ceremony on March 24, GSGES's academic year 2013 graduates threw a party for the faculty and staff to express their appreciation. The participants will no doubt look back fondly on this happy occasion for years to come.

平成 26 年 3 月 24 日、地球環境学舎学位授与式の後、百周年時計台記念館国際交流ホールⅢで、地球環境学舎謝恩会が開かれました。以前は、教職員が修了生をお祝いする祝賀会を開催していましたが、数年前からは、修了生が教職員や在校生に感謝の意を伝える謝恩会が開催されるようになりました。

地球環境学舎は京都大学大学院の中でも女子学生の比率が高いため、会場は袴やドレスの装いでとても華やかでした。母国の色鮮やかな民族衣装をまとった留学生の姿が見られるのも、学舎の特徴です。会場のあちこちで、修了生同士はもちろん、修了生と教職員、修了生と在校生が、笑顔で会話を花を咲かせていました。教職員が挨拶をする時に写真を撮りに会場の前方へ集まってくる修了生たちの姿からも、他研究科に比べて学生数の少ない学舎ならではの学生と教職員の距離の近さが感じられました。

なお、今回の謝恩会には、修了生がインターン研修などでお世話になった、フエ農林大学、ハノイ理科大学、マヒドン大学、バンドン工科大学、コンケン大学、カンボジア王立農業大学、ボゴール農業大学、チャンパサック大学の先生方も、お越しくださり、久しぶりの再会を喜ぶ姿も見られました。

修了生の皆さまのご活躍をお祈り致しております。



地球環境学舎謝恩会の様子

Certificates and guidance for CoHHO students

By Michiko Hasegawa, researcher, CoHHO Educational Unit

The Connectivity of Hills, Humans and Oceans (CoHHO) educational program held its first certification ceremony on March 24, when 26 students received certificates for completing the course. On April 9, the next students to embark on the program were given guidance on the course. There are now approximately 100 people studying the connectivity of hills, humans and oceans at Kyoto University.

平成 26 年 3 月 24 日、京都大学旧演習林事務室共同会議室で森里海連環学教育プログラム第 1 回修了式を開催しました。2013 年度にプログラムを履修した 77 名の学生のうち 26 名（そのうち 19 名が地球環境学舎の学生）が 1 年で修了を迎え、山下ユニット長から修了証を授与されました。藤井地球環境学舎・学舎長らからのご祝辞に続き、農学研究科の萱嶋航さんが修了生を代表して英語で挨拶をしました。最後に、森里海連環学教育プログラムの同窓会を設立すること、および 2013 年度京都大学一日本財団森里海連環学フェローである地球環境学舎の Randriamanantsoa Stephane



森里海連環学教育ユニット修了式



スタディツアー

Olivier さんが同窓会会長に就任することが発表されました。修了式前日の3月23日には修了記念イベントを兼ねたスタディツアーを行いました。滋賀県近江八幡市を訪ね、舟で琵琶湖を見学したり竹林整備を体験したりしながら、琵琶湖を取り巻く森・里・海（湖）の連環を学びました。このスタディツアーで親睦を深めた修了生たちは、修了式の前後に写真を撮り合ったり連絡先を交換し合ったりしていました。彼らは、今後、プログラムの履修を通じて築いたネットワークを生かしながら、それぞれの研究分野で森里海連環学を応用および発展させて行ってくれることと思います。

2年目を迎えた森里海連環学教育プログラムでは、平成26年4月9日、新規履修希望者を対象としたガイダンスを実施しました。京都大学のさまざまな大学院から約80名の学生が参加し、そのうちの約半数は地球環境学舎の学生でした。最終的に今年度は54名の学生（そのうち29名が地球環境学舎の学生）を新たに受け入れることとなり、昨年度からの継続履修者と合わせ、京都大学の9つの大学院に在籍する99名の学生が現在プログラムを履修しています。

修了生の今後の活躍とプログラムの将来の発展を楽しみにするとともに、さらなるプログラムの充実に全力を尽くして参ります。

First Global Environmental Studies Konwakai fosters discussion

By Yoshihiro Okumura, assistant professor, GSGES

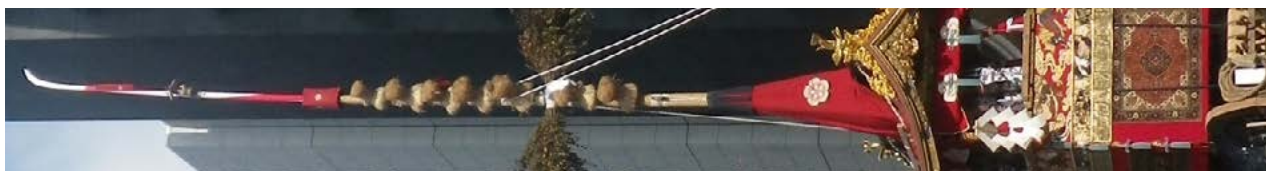
The first Global Environmental Studies Konwakai of the 2014 academic year took place on April 4. The first speaker was Assistant Professor Narumasa Tsutsumida, who gave a talk on how land use/cover is changed by anthropogenic disturbances. The second speaker was second-year doctoral student



第1回地球環境学舎懇話会における堤田氏（上）、大貫氏（下）による発表

Masataka Onuki, who talked about the decomposition of dead organic matter in the forest ecosystem. The two topics were then discussed by 18 GSGES participants, who put forward a range of views from different fields of expertise.

平成26年度第1回の地球環境学舎懇話会が4月2日に開催されました。懇話会は、専門分野に細分化しがちな環境関連諸分野間のコミュニケーションを推進するために継続的に実施している部局内勉強会です。今回は地球環境モニタリングの専門家2名の講演者を囲み、18名の参加による活発な議論が行われました。堤田成政氏（地域資源計画論分野助教）からは「急激な都市化等、人間活動による土地利用



堤田、大貫両氏の研究発表に聞き入る聴衆

「被覆変化の詳細把握」について、大貫真孝氏（生態系生産動態論分野 D2）からは「周北極域における森林生態系内枯死有機物等の分解挙動把握」について、それぞれの最前線の研究成果と今後のグローバルな展開の活動計画について熱く語られました。

Second Global Environmental Studies Konwakai prompts debate

By Tomohiro Numata, assistant professor, GSGES

This year's second Global Environmental Studies Konwakai took place on May 28. The first speaker was Assistant

Professor Hidenori Harada, who discussed the development of a fecal sludge management strategy and evaluation framework in developing countries. The second speaker was Assistant Professor Ryoma Kamikawa, who talked about the ecological roles of microbial eukaryotes in anaerobic environments broadly distributed on the Earth. The two topics prompted an interesting discussion among 19 participants from various fields of study at GSGES.

平成 26 年度第 2 回の地球環境学堂懇話会が 5 月 28 日に開催されました。懇話会は、専門分野に細分化しがちな環境関連諸分野間のコミュニケーションを推進するために継続的に実施している部局内勉強会です。今回は地球環境モニタリングの専門家 2 名の講演者を囲み、19 名の参加による活発な議論が行われました。原田英典氏（環境調和型産業論分野 助教）からは「開発途上国におけるし尿汚泥管理戦略と評価枠組みの構築」について、神川龍馬氏（環境生命技術論分野 助教）からは「地球上に広く存在する嫌気環境生態系における生物の役割解明」について、それぞれの最前線の研究成果のご発表により微生物と他の生物の関係からグローバルな活動計画や今後の研究の発展性について熱い議論が交わされました。

Short-visit special auditing students outline study plans

By Gaku Masuda, researcher, GSGES

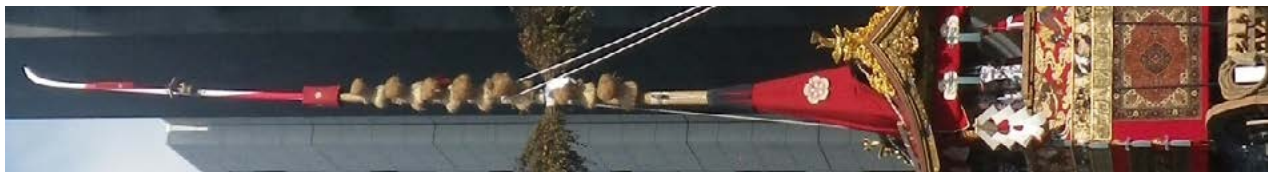
On April 17, four students from Cambodia, Vietnam and Indonesia, visiting GSGES as part of a program to promote the study of a sustainable humanosphere in south-east Asia, set out their six-month study and research plans. The topics were: 'Malnutrition threatens the city'; 'Applying the genetic algorithm in the forecast of air quality'; 'Restoration of the heath forest disturbed by tin mining on Belitung island' and 'Natural disaster risk management for the floating community on Tonle Sap lake'. The presentations were followed by a welcome ceremony and lunch, where the visitors enjoyed conversations with regular students and members of staff.



第 2 回地球環境学堂懇話会における原田氏（上）、神川氏（下）による発表



Special auditing students with GSGES faculty members



By Hidenori Harada, assistant professor, GSGES, and
secretary, GSGES Alumni Association

パーティーでは、まず、田中俊徳同窓会会長より開会の挨拶が行われました。その後、藤井滋穂学舎長の挨拶、初代会長である筆者による乾杯が行われ、会は始まりました。会場では同級生のみならず学年をまたいだ修了生同士の賑やかな会話が広がり、また修了生は恩師との再会を喜び、会場は非常に賑やかな雰囲気になりました。途中、参加者同士の一層の親睦を深めるための交流イベントが行われるとともに、各修了年度の代表者から学舎終了後の活躍の状況が紹介されました。2時間という時間はあっという間に流れ

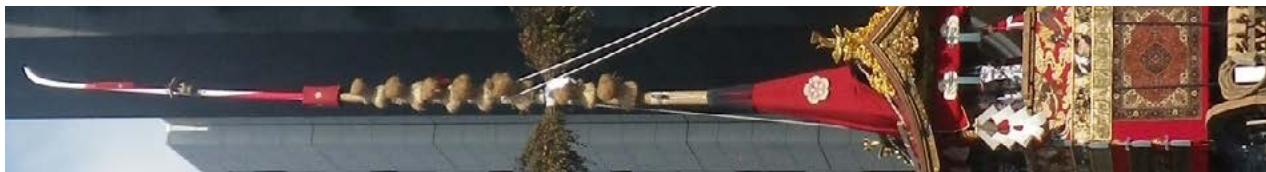
同窓会 Facebook: <https://www.facebook.com/pages/地球環境学会同窓会/155712134548602>

By Shuichiro Shiotsuka, associate professor, GSGES

第19回地球環境フォーラム「空・海・地中から〈見る〉環境問題～あなたの知らない地球へ～」を京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールⅠおよびⅡにおいて2014年6月22日に開催した。地球環境が抱える問題の多くは、日常生活空間の視点や抽象的なデータを介しては実感しづらいものである。そうした問題のいくつかを空・海・地中からの視線によって直観的に把握し、新たな視点から地球規模の環境問題を考えようとの趣旨である。以下の三つの講演を受け、総合討論を行った。



地球環境学会同窓会設立 10 周年記念パーティーでの集合写真



第19回地球環境フォーラムの演者の皆さん



第19回地球環境フォーラムの様子

小方 登 (地球環境学堂教授)「新旧の衛星画像で見るシルクロード地域の歴史・文化景観」

佐藤 克文 (東京大学教授)「海で暮らす動物の視点で眺める海洋環境」

後藤 忠徳 (工学研究科准教授)「海底探査・地下探査から考える地球環境」

小方教授は、中国西部の砂漠における古代オアシスの廃墟と、それが現代の入植地に侵食されていく様子を新旧の衛星画像および豊富な現地写真を用いて紹介された。佐藤教授は、直接観察が難しい海の動物の行動生態を小型の動物搭載型カメラによって調査する研究を紹介された。こうした手法によって得られる画像は当初の期待や予想を裏切るものであることが多いが、しばしば重要な発見につながることもあり、環境学の分野においても、新たな問題の発見および解決につながる事が期待されると話された。後藤准教授は、地底・海底探査の手法や成果を豊富な画像・動画を用いて紹介された。深海6000mにも人間のゴミが運ばれていることを示したのち、海底や地下は目に見えないために「何事もない」かのように思われがちだが、実際にはそうではなくきちんと調べなければならないと結ばれた。

KU sustainability fair brings together students, staff and citizens in month of activities

By Tracey Gannon, associate professor, GSGES

Eco-rudo Kyodai/École de Kyodai 2014 (literally, 'school for eco studies', playing on the word 'eco' as well as 'école', the French word for school) was a month-long sustainability

fair held at Kyoto University from June 1. Mainly run and organized by students, the fair featured events such as the Eco Compe (a contest offering prizes for the best campus sustainability proposal), 'eco performances' on the Camphora terrace and Eco Marché, a market for fair-trade and eco-friendly products.

It also offered participatory activities, such as a stamp rally and swap meet (Butsuichi) for exchanging second-hand items plus talks, discussion groups and film screenings on the theme of sustainability. As one of the event's sponsors, the Graduate School of Global Environmental Studies helped faculty and staff from the Kyoto University (KU) Environmental Preservation Research Centre and Office for a Sustainable Campus coordinate with students in organizing, implementing and promoting the month of activities.

The GSGES faculty contributed in a number of ways. At an Open Lab, which ran from June 2 to 13 in the lobby of the Rune Cafeteria, Associate Professor Akihisa Mori was one of eight KU professors to introduce undergraduates to the day-to-day activities of a researcher in environmental studies. At the Senpai Sustainability Salon on June 29 and June 30, Associate Professors Jane Singer and Tracey Gannon mobilized more than 50 students from GSGES's Environmental Ethics and Environmental Education course to share with an undergraduate audience new ideas for addressing environmental problems.



International students pitch a sustainability proposal on the first day of the Senpai Sustainability Salon

Singer was joined by Professor Rajib Shaw, also of GSGES, on the panel of judges tasked with selecting the winners for the Eco Compe. The top prize was the chance to participate in the Association for the Advancement of Sustainability in Higher Education's annual conference, to be held from October 26 to 29 in Portland, Oregon, plus 300,000 yen to finance the winning team's proposed sustainability project.

But the main GSGES contributions came from its students. Yuri Sugimoto, Kieu Thi Kinh and Yuting Lin coordinated with fellow graduates Doan Huy Loi (Graduate School of Engineering), Ilona Aleksunaite (Graduate School of Human and Environmental Studies), Crystal Uchino (Graduate School of Human and Environmental Studies) and undergraduates from a fair-trade study circle (Manabiya Hachidori) to put together the two-day Green Screen film festival on June 21 and 28. This featured films about fair trade ('Valentine



Solidarity', Japan 2012), food sustainability ('Taste the Waste!', Germany 2011) and the cost of capitalism and nuclear energy ('Nuclear Nation: the Fukushima Refugees' Story', Japan 2011).

Each screening incorporated a discussion with special guests and invited questions from the audience. In one session, a local chocolatier, Adachi Kokoro from Dari K, shared her passion for chocolate made from ethically sourced and organically grown cocoa beans. In another, undergraduates from the Deko Vege Café KU student circle shared ideas for reducing food waste by encouraging the use of 'non-standard' or misshapen vegetables rejected by supermarkets.

Creative approaches to communication were also evident at the informative, entertaining and often humorous PowerPoint presentations and student-produced videos that were a feature of the Senpai Sustainability Salon.



Adachi Kokoro shares the secret of good chocolate with students in the lobby at the Green Screen Film Festival

Coverage of the film festival and salon, written by GSGES students Yuri Sugimoto and Genta Nakano, will be published in the forthcoming annual KU Environmental Report. These contributions will ensure that the collaboration between GSGES and the administration over the course of Eco-rudo Kyodai continues beyond the scope of the month-long event. Indeed, the formation of new connections between student cohorts, faculty members, staff and departments on campus – and KU, other universities and Kyoto citizens off campus – is a major outcome for the GSGES faculty and students, who dedicated time and energy to making the month a success.

Kanoko Takaya, a visual-design graduate of Seika University, designed an arrestingly beautiful poster for the student film festival that, as well as being posted around the university, appeared on Facebook and was displayed in a number of vegan and organic food outlets close to the KU campus and at sites all over Kyoto. More artistic support came from former KU student Hideovic Uesugi, now a musician (aka Geronimo Label) as well as an anti-nuclear activist. On the first day of the Senpai Sustainability Salon, he thrilled the audience at the Kyoto Museum with an electrifying rap and punk



Green Screen Film Festival poster, designed by Kanoko Takaya

acoustic set, exposing the ongoing plight of Fukushima's refugees and the current taboo surrounding radiation issues.

Finally, staff from Green Action, a local NGO, joined forces with PhD students Mai Kobayashi (GSGES), Crystal Uchino and Graduate School of Energy Science Associate Professor Ben McLellan to host a workshop, entitled 'Towards a consensus on present and future energy in our society', on the last day of the film festival. This was the first in a series of 'study-meets' that brought students and citizens together to discuss energy issues.

Sustainability is as much about connecting people and networks as it is about connecting thinking and ideas. In this sense, the collaboration and cooperation fostered by Eco-rudo Kyodai meant the month was as much a learning experience for the students and faculty who hosted it as for the undergraduates who enjoyed the events.

地球環境学堂・学舎は、エコ〜るど京大 2014 に参加しました。「エコ〜るど京大」とは、エコ×ワールドからの造語であり、「Think globally, Act locally, Feel in the Campus!」のメッセージをこめると同時に、京大の中でエコを学ぶ学校 (École とはフランス語で学校) を期間限定で開校する意味もこめたものです。2014 年 6 月 2 日から 30 日までの 1 ヶ月間、学堂教員および学舎院生が様々な活動に参加しました。

■ ■ ■ お知らせ / Announcement ■ ■ ■

GSGES holds international symposium in Can Tho, Vietnam

By Hirohide Kobayashi, associate professor, GSGES

GSGES, Hanoi University of Science and Technology, and Can Tho University, sponsored by the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) Core-to-Core Program, are organizing the Second International Symposium on the Formulation of the Cooperation Hub for Global Environmental Studies in the Indochina Region and the Ninth Inter-University Workshop on Education and Research Collaboration in the Indochina Region. These events will take place on September 27 and 28 at Can Tho University, Vietnam. Researchers from Japan and various Asian countries will discuss the current status of global environmental issues and share future perspectives with representatives from a number of environment-related Japanese companies.

掲載記事の募集について / Seeking Articles for Sansai Newsletter

第 9 号のニュース・レターへの記事の掲載をご希望の方は、ges-sansai@ges.kyoto-u.ac.jp までご連絡ください。

To contribute to Sansai Newsletter No. 9, please email ges-sansai@ges.kyoto-u.ac.jp